

ー 全国の学校の先生のお取り組みをご紹介します ー

共通テストを見すえた、高2の3学期～高3の1学期の指導

さまざまな学校課題や指導テーマに対して指導を工夫されている先生方に取材を行い、その実践をご紹介します。

今回は、2024年共通テストを見すえた高2の3学期～高3の1学期のご指導について、先生にお話をうかがいました。ぜひご覧ください。

2023/3/10

学校情報

近畿地区を中心とした国公立大学へ進学を希望する生徒が多い。
本校も国公立大学進学を目指すように指導を行っている。

指導の ポイント

1) センター試験と共通テストの違い

基本的なことはセンター試験と変わらないが、共通テストでは読む量が圧倒的に増えた。膨大な量の問題文からキーワードやキーセンテンスを見つけて設問との関係を見抜く力、本文全体の要旨を捉える力、複数の題材を読んで比較し、解答判断に到る根拠を見つける力などを養う必要がある。加えて試験本番では、素早かつ確に処理する力と、80分間集中して取り組む力が必要である。共通テストでは分量増や、さまざまな出題形式に対応できる学習や指導が必要になると思われる。

2) 共通テストに向けた準備は高2の12月からスタート

共通テストでは「これだけの分量を読まなければならない」ことを早く自覚させるために、高2の12月から共通テストに向けた準備を始めた。まずは共通テスト形式に触れることをこの時期の指導のねらいとした。なお、高2段階であることを考慮して、授業の中で「重要問題演習」に取り組み、解答選択の根拠についてグループ学習を行うなど、導入期の指導も取り入れた。

3) 「語彙力」の習得・育成がポイント

文章を読んで正しく理解し、ポイントを見抜くには「語彙力」が土台として必要になる。生徒間で違いはあるが、スマホの影響からか本を読む習慣が減って、語彙力が乏しくなっているように感じる。1・2年生の途中までは、出題頻度順にまとめた仕上げ型の教材ではなく、漢字そのものの意味を確認していけるような教材を使って、語意の曖昧な言葉に出会ったら辞書で確認する習慣を身につけることが大切だと思う。そしてやはり、読書の習慣を粘り強く呼びかけることが肝要だと思う。

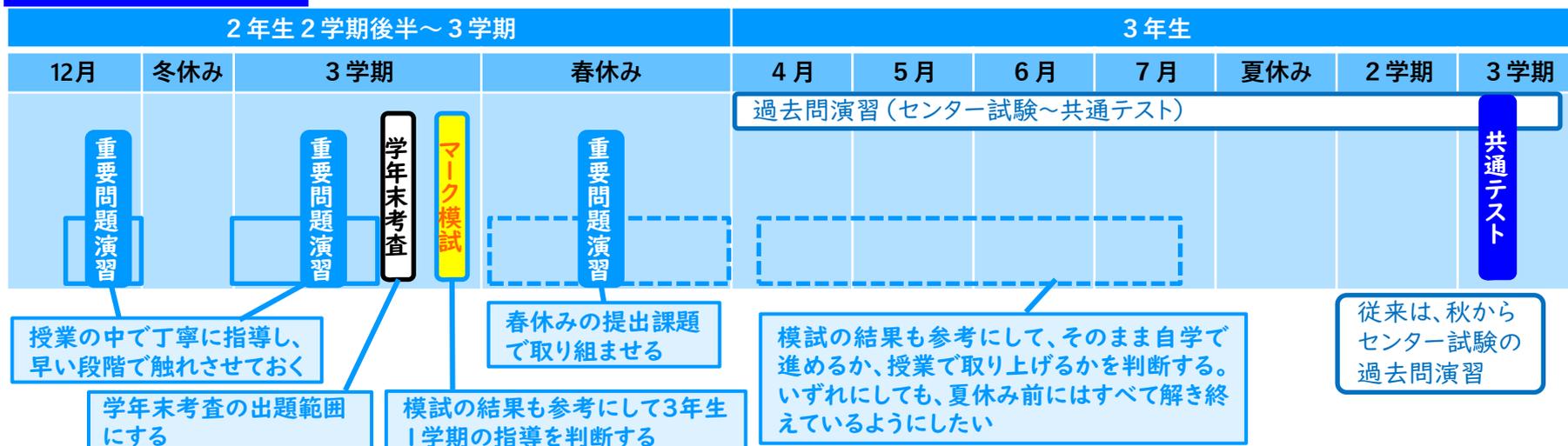
「重要問題演習」の活用



高2の段階で共通テスト形式に触れさせておくために「重要問題演習」を活用

- 1) 分量の多さ、複数テキスト、さまざまな題材の文章といった共通テスト形式の問題に触れさせておくことがこの時期の指導のねらい。他の先生から「重要問題演習」の評価を聞いて採用を決めた。
- 2) 2年生の12月から、授業の中で論理的な文章の問題1題、文学的な文章の問題1題を生徒たちと一緒に取り組んだ。「重要問題演習」は前半から後半へ難易度が徐々に上がっており、この時期でも生徒の学習の流れに応じたレベルの問題で共通テスト形式の問題に取り組ませることができる。
- 3) 問題の一部を、学年末テストの出題範囲として取り組ませた。
- 4) 残りの問題を春休みの提出課題として取り組ませる。
- 5) 3年生では、そのまま自学で進めるか、授業で取り上げるかを、2年生の最終段階で受験する模試の結果も参考にして決める予定である。いずれにしても、夏休み前にはすべて解き終えているようにしたい。

指導のながれ



複数のテキストを踏まえた設問

解答解説

4大澤真幸【文章Ⅰ】『社会は絶えず夢を見ている』
【文章Ⅱ】『不可能なことだけが危機をこえる』

問6 【要旨の把握(情報の統合)】

次に示すのは、「文章Ⅰ」「文章Ⅱ」を読んだ後に三人の生徒がパンデミック(感染症)の世界的な流行 について話し合っている場面である。本文の趣旨を踏まえ、空欄に入る発言として最も適切なものを、後の①～⑤のうちから1つ選べ。

こう解く! 設問の会話文をよく読み、本文中の対応箇所を確認する。

手順 空欄直前の生徒Bの発言から、「文章Ⅰ」と「文章Ⅱ」はともに倫理観にふれていることがわかる。それぞれの文章でどのような倫理観について説明されているかを確認する。

まず「文章Ⅰ」では、「リスク社会では、古代ギリシア以来の倫理の基本が否定されてしまう——このことが重要です。アリストテレスが述べたことは、美德は中庸の内にある、ということでした」と、「中庸」の倫理観について説明されている。この「中庸」の倫理観は、問4にもあるように「民主主義的な決定の基盤」にもつながる、合理性を重んじる倫理観だと言える。できる限り多くの人の利益に資する政策を決定していこうという考えかたが、感染症が拡大する状況の中では機能しなくなるのである。一方、「文章Ⅱ」では、「人間の倫理のベースであり、人間が本能的に持っていると考えられる、弱い者をこそ救済したいと感じる倫理観について説明されている。」

▼以上二点から、⑤が正解。

▼本文確認でチェック!

選択肢を確認!

- ① けれど、「文章Ⅰ」では古代ギリシア以来引き継がれてきた伝統ある倫理観について述べられているのに対して、「文章Ⅱ」は人間が本能的に持っている倫理観について説明している。
X「文章Ⅱ」は人間が本能的に持っている倫理観について説明している。
- ② でも、「文章Ⅰ」では刊行関係を整えるために中間をとるという現実に対応していた倫理観について述べられているのに対して、「文章Ⅱ」では困難な状況であっても最善を尽くすべきだという理想に基づいた倫理観について説明されていると思うんだ。
X「現実(理想)に基づいた対応ではない。」
- ③ 「文章Ⅰ」は古代ギリシア時代から続く中庸の倫理観について、「文章Ⅱ」は動物とは違う人間特有の倫理観について説明されているけれど、X「本文にない。」
X「本文にない。」
- ④ 「文章Ⅰ」では社会的な合意形成をうながす全体に開かれた倫理観、「文章Ⅱ」では閉じたときは助け合おうという個人に開かれた倫理観が示されているけれど、X「少人数の倫理観は少数意見を切り捨てることにはならない。」
X「少人数の倫理観は少数意見を切り捨てることにはならない。」
- ⑤ ただ、「文章Ⅰ」では多数の意見を聞いたうえで問を収めるという合理性に基づいた倫理観について述べられているのに対して、「文章Ⅱ」では人や仲間を大切にするといった人間が本能的に持ちまわしている倫理観について説明されていると思うんだ。

問6 次に示すのは、「文章Ⅰ」「文章Ⅱ」を読んだ後に、三人の生徒がパンデミック(感染症)の世界的な流行 について話し合っている場面である。本文の趣旨を踏まえ、空欄に入る発言として最も適切なものを、後の①～⑤のうちから1つ選べ。

10 ①点

生徒A—SARSやMERS、新型コロナウイルスと感染症の脅威が他人事でなくなつて、僕たちもこうした問題に真摯に向き合わなければならぬね。

生徒B—私も、そう思う。今までは、パンデミックは「世紀に一度起こるかどうか」という認識だったけれど、そうでもない状況が続いているね。

生徒A—一度パンデミックが起きてしまうと、経済をストップさせたり、感染地域を閉鎖したり、政治的な対応が迫られることになるよね。さらに、「文章Ⅱ」にもあったように医療現場が逼迫した状況に陥ってしまう。

生徒B—そのような状況で人間の倫理観が切り崩されていくとするとそれは本当に恐ろしいよ。「文章Ⅰ」も「文章Ⅱ」も倫理の問題についてふれているよね。

生徒C—たしかに。

生徒B—なるほどね。パンデミックの危機は、人間がどのように関係を構築し、社会を動かしているかという根本的な問題を見直すことにつながるね。

解答の根拠がわかる解答解説で解き方と手順を習得し、本格的な実戦演習へ

「2024共通テスト対策【実力完成】直前演習 国語」(2023年6月16日発刊)



本社：〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17

本資料の内容を、無断転載することを禁止します。
各種コンテンツに転載する場合は事前に弊社までご連絡ください。
本資料に関するお問い合わせや、
教材のご注文・見本請求などは、下記窓口までお願いいたします。

ラーンズ お客様センター 0120-548155 通話料無料

受付時間/月～金 9:00～17:00(祝日、年末・年始を除く)

